

# I 平成28年度事業報告書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

当財団は、埼玉会館及び彩の国さいたま芸術劇場の指定管理者として、平成27年度から5年間の指定を受け、質の高い舞台芸術作品を創造、発信するとともに、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を引き続き実施してきた。

平成28年度は、蜷川幸雄芸術監督の逝去により、公演を中止するなどの影響があったが、演劇部門においては、同監督の遺作となった彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾『尺には尺を』のほか、創設130年の歴史と伝統を誇るオックスフォード大学演劇協会（OUDS）による『夏の夜の夢』の公演などを行った。また、児童・青少年向けの演劇作品の公演等、幅広い世代に演劇に触れる機会を提供した。

舞踊部門においては、国内外で活躍するアーティストによる新作の製作、世界的に活躍する振付・演出家による最新作の招聘、普及教育を目的とした学生向けワークショップの開催など、多彩な身体表現の可能性を探る作品及び体験の機会を提供した。

音楽部門においては、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用した公演の実施のほか、気軽に足を運べる無料コンサートの開催、音楽を小・中学校の子供たちへ届けるアウトリーチ事業の実施など、参加・育成を目的とした事業も展開し、多種多様な音楽ニーズに応えた。

なお、海外からの招聘を受け、さいたまネクスト・シアター『リチャード二世』を4月にルーマニアで、「日本昔ばなしのダンス」シリーズの『はなさかじいさん』を12月にニューヨークで、それぞれ上演した。

その他、小学生とその保護者を対象として彩の国さいたま芸術劇場内の施設や舞台機構等を実際に見て触れることができる「劇場体験ツアー」を行うなど、地域の舞台芸術に対する関心・理解を深めるための事業に引き続き取り組んだほか、2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムとして、県委託事業「1万人のゴールド・シアター2016」をさいたまスーパーアリーナで上演した。

また、施設利用に関しては、安心・安全に万全を期した適正な管理を行うとともに、アンケートの意見等に迅速に対応したほか、財団ホームページ更新に伴い、利用者への広報を充実するなど、利用者サービスの更なる向上に努めた。

なお、埼玉会館は平成27年10月から平成29年3月まで、大規模改修工事により休館となり、平成28年度においては、リニューアルオープンに向けた諸準備を進めた。

## 1 事業の概要

### (1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

#### ア 自主企画公演等及び国内外との交流（53事業）

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供した。

#### (ア) 演劇部門

当劇場の看板シリーズである蜷川幸雄芸術監督演出による「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、5月に第32弾として喜劇『尺には尺を』を上演した。また、平成27年4月に上演した第30弾『リチャード二世』は、クライオーヴァ国際シェイクスピア・フェスティバルの招聘を受け、4月にルーマニアで上演した。なお、蜷川芸術監督の逝去を受け、10月に予定していたNINAGAWA×SHAKE SPEARE LEGEND第3弾『ハムレット』、1月に予定していた『近松心中物語』の2公演は中止した。

その他、児童・青少年向けの演劇作品として「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」との連携により海外の児童劇を招聘し、あらゆる世代が鑑賞できる機会を設けた。

また、注目の若手である藤田貴大の作・演出で一般公募出演者によるワークショップ公演『ドコカ遠クノ、ソレヨリ向コウ 或いは、泡ニナル、風景』を実施するとともに、自身が率いる「マームとジブシー」による『クラゲノココロ』『モモノパノラマ』『ヒダリメノヒダ』を共催した。

「松竹大歌舞伎」は、平成27年度に引き続き（公財）熊谷市文化振興財団との共催公演として熊谷文化創造館さくらめいとで実施した。

「さいたまゴールド・シアター」は、さらなる飛躍を目指して、1月に『Pro・cess2017』を上演した。

事業名	実施時期	会場
『リチャード二世』ルーマニア公演	4月	ルーマニアクライオーヴァ
彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾『尺には尺を』	5月～6月	大ホール
松竹大歌舞伎	7月	熊谷文化創造館さくらめいと
児童演劇公演『NOX(ノクス)～夜のふしぎ～』	8月	小ホール
オックスフォード大学演劇協会公演『夏の夜の夢』	8月	小ホール
藤田貴大ワークショップ公演『ドコカ遠クノ、ソレヨリ向コウ 或いは、泡ニナル、風景』	8月～9月	大稽古場
マームとジブシー『クラゲノココロ』『モモノパノラマ』『ヒダリメノヒダ』【共催】	9月	大稽古場
さいたまゴールド・シアター『Pro・cess2017』	1月	大稽古場

## (イ) 舞踊部門

国内外で活躍するアーティストによる新作製作、世界的に活躍する振付・演出家の最新作を招聘したほか、普及教育を目的とした一流の振付家によるワークショップを、学生を対象に展開。多彩な身体表現の可能性を探る作品および体験の機会を提供した。

主催公演として、国内からは、結成20周年を迎え、ますます意欲的な活動を展開するとともに、埼玉では10回目の登場となる近藤良平が率いる人気のダンスカンパニー「コンドルズ」による新作を製作上演。埼玉ならではの作品を発信することができた。また、作品製作の期間中には地域の高校ダンス部生徒に対して、近藤良平によるダンス・ワークショップを実施。プロのアーティストから直接指導を受ける機会を提供した。

海外からは、10月に、1992年アルベールビル冬季五輪の伝説的な開会式を振付したフランスを代表する世界的アーティスト、振付家、演出家であるフィリップ・ドゥクフレの最新作『Contact』（2014年初演の日本初来日作品）を上演した。なお、カンパニーのダンサーを大学に派遣し、ワークショップを実施。学生たちに世界トップレベルのダンスを体験する機会を提供した。また、3月には平成25年に大きな反響を呼んだ来日公演が記憶に新しい、ピナ・バウシュが率いたヴッパタール舞踊団を招聘し、1982年の傑作『NELKEN(カーネーション)』を上演した。

国内外トップレベルの作品を招聘・上演する一方で、劇場製作の作品の海外上演も行った。12月には平成18年度から当劇場で企画・製作し、その後も新作を発表しながら継続的に実施している「日本昔ばなしのダンス」シリーズの『はなさかじいさん』をニューヨークのジャパン・ソサエティからの招聘を受け上演した。

このほか、身体によるコミュニケーションの向上と創造性の育成を目的として、平成26年度から実施している振付家、ダンサーの岩淵多喜子による、県内中学校の生徒を対象にしたダンス・ワークショップを実施した。

また、新潟を拠点とし、国内外で積極的な活動を展開する日本初の劇場専属舞踊団 Noism との共催公演を行った。8月には国内外で活躍する邦人アーティストが集結した新たなプロジェクト・カンパニー「Noism0」による『愛と精霊の家』を、2月には正式メンバーで構成されるメインカンパニー「Noism1」による新作「『マッチ売りの話』+『Passacaglia』」、といずれも意欲的な作品を上演した。

事業名	実施時期	会場
コンドルズ新作公演『LOVE ME TenDER』	6月	大ホール
Noism0『愛と精霊の家』【共催】	8月	大ホール
フィリップ・ドゥクフレカンパニーDCA 『Contact』	10月	大ホール
ミート・ザ・ダンス(岩淵多喜子WS)	11月	県内中学校
日本昔ばなしのダンス 海外公演	12月	ニューヨーク
Noism1「『マッチ売りの話』+『Passacaglia』」【共催】	2月	小ホール
ピナ・バウシュ ヴァッパター舞踊団『NELKEN(カーネーション)』	3月	大ホール

#### (ウ) 音楽部門

彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施した。また、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業も併せて展開した。

注目のアーティストをクローズアップして3年にわたって展開する劇場オリジナル企画「現在(いま)」シリーズは、ヴァイオリンの佐藤俊介による公演の最終回として、作曲当時の奏法を踏まえて、1910年代から1930年代にかけてのクラリネット、ヴァイオリン、ピアノによる室内楽を取り上げた。

また、若手の中でも選りすぐりのピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」、同シリーズの「アンコール!」公演及びリサイタル・シリーズ「次代へ伝えたい名曲」を継続して開催した。

さらに、世界屈指のピアニスト、アンドラーシュ・シフを初めて劇場に招聘したほか、2013年にバッハの無伴奏作品全曲演奏で当劇場音楽ホールを高く評価したイザベル・ファウストが当劇場での公演を望んだ名手ベザイデンホウトとのバッハ・プログラムなど、最高級の演奏を鑑賞する機会を提供した。

加えて、スター奏者による夢のアンサンブル「レ・ヴァン・フランセ」の公開リハーサルや、共催として、埼玉県在住で日本を代表するピアノ・デュオ「ドゥオール」によるピアノ・デュオ・セミナーを開催するなど、トップ・アーティストからの学びの場も提供したほか、世界で活躍する打楽器奏者、加藤訓子による映像と音響によるインスタレーションから生演奏へと移行する意欲的な公演を共催した。

国際的に活躍の場を広げるバッハ・コレギウム・ジャパンによる毎年度恒例の彩の国さいたま芸術劇場公演では、15年ぶりとなるバッハの大作《ミサ曲 ロ短調》を上演した。

誰でも気軽に音楽に触れられる機会を提供するため、埼玉会館ランチタイム・コンサートでも好評を博した「NHK 交響楽団12人のチェリストたち」を劇場音楽ホールで上演するとともに、ポジティブ・オルガンを活用した無料のミニ・コンサート「光の庭プロムナード・コンサート」も継続して行った。オルガンを通じて音楽の普及啓発を図る「みんなのオルガン講座」については、若手講師を加えて、好評のレクチャーを年2回に増やすなど、プログラムを充実させた。

また、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も、内容の充実をはかった。

事業名	実施時期	会場
次代へ伝えたい名曲(第7回～第9回)	5月～3月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.6	7月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル	7月	情報プラザ
ピアノデュオ ドゥオール デュオセミナー【共催】	8月～9月	音楽ホール他
ピアノ・エトワール・シリーズ(Vol.29～Vol.31)	9月～1月	音楽ホール
イザベル・ファウスト&クリスティアン・ベザイデンホフト デュオ・リサイタル	10月	音楽ホール
レ・ヴァン・フランセ(公開リハーサルも開催)	10月	音楽ホール
加藤訓子 Project IX - PLEIADES【共催】	10月	小ホール
NHK交響楽団 12人のチェリストたち	11月	音楽ホール
バッハ・コレギウム・ジャパン J. S. バッハ《ミサ曲 短調》	11月	音楽ホール
佐藤俊介の現在(いま) Vol.3	2月	音楽ホール
アンドラーシュ・シフ ピアノ・リサイタル	3月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート	通年	情報プラザ
みんなのオルガン講座	通年	大練習室他
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる!	通年	県内小・中学校

#### (エ) その他

好評の「彩の国さいたま寄席」は年4回、また、親子で劇場空間に親しんでいただく「劇場体験ツアー」も引き続き開催した。

さらに、県内高等学校の生徒及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会を実施するとともに、埼玉大学の講座への協力、大学生インターンシップの積極的な受け入れなど、地域との連携を深めた。

9月から12月にかけて開催された「さいたまトリエンナーレ2016」においては、彩の国さいたま芸術劇場施設内でのレセプション開催や美術作品展示など、さいたま市と連携した取組を行った。

また「1万人のゴールド・シアター2016」が連携プロジェクトとしてトリエンナーレに参加した。

事業名	実施時期	会場
埼玉大学アートマネジメント講座	4月～7月	埼玉大学他
彩の国さいたま寄席	4月～1月	小ホール
劇場体験ツアー	12月	大ホール
舞台技術講座	8月～2月	小ホール
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場

#### イ 2020年東京五輪文化プログラム

東京2020公認文化オリンピック参加プログラムとして、県委託事業「1万人のゴールド・シアター2016」を製作、12月にさいたまスーパーアリーナで上演した。故蜷川幸雄芸術監督の企画・原案、加藤種男氏の企画・構成、ノゾエ征爾氏の脚本・演出による大群集劇に、公募で集まった60歳以上の高齢者約1,600人、さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター、蜷川氏ゆかりの俳優陣ほかが出演した。

#### ウ 広報に関する事業

##### (ア) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を行った。

##### a 故蜷川芸術監督の追悼 企画展

- ・「追悼 蜷川幸雄 彩の国シェイクスピア・シリーズ」舞台写真展  
(5月21日～6月12日 ガalleryにて開催)
- ・「彩の国シェイクスピア・シリーズ」舞台写真展  
(9月27日～11月6日 ガalleryにて開催)

故蜷川芸術監督への追悼の意を込めて、当劇場の看板演目ともなっている「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の舞台写真を展示した。

・「NINAGAWA STUDIO 蜷川幸雄の稽古場」展示

(10月15日 大稽古場にて開催)

故蜷川芸術監督の誕生日である10月15日に大稽古場を一般開放し、大小様々な小道具や蜷川芸術監督の愛用の机などを展示した。

b 「コンドルズ」舞台写真展

(6月14日～7月10日 ガレリアにて開催)

6月に開催した公演に合わせて、「コンドルズ」の舞台写真を展示した。

(イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころを、より分かりやすく伝えるとともに、財団の各種ご案内等の様々な情報を掲載し、読みやすく、かつ充実した内容となるよう、編集を行った。

a 発行回数、部数 6回 各12,000部発行

b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

(ウ) メンバーズ事業

会員に財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」を送付するほか、顧客の定着化とチケットの販売促進のため、主催事業のチケットの優先予約や割引販売などを行った。

会員数 5,072人 (平成29年3月末現在)

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し財政面で支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」の運営を行うとともに、会員の拡大を図った。

サポーター会員数 112社(者) (平成29年3月末現在)

エ 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、DVD等を収集し、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開した。

(単位 点)

	資料総数	左記にかかる分野ごとの内訳				
		演劇	舞踊	音楽	映画	その他
書籍	11,093	2,213	604	2,788	713	4,775
C D	11,012	9	77	10,544	0	382
映像	2,941	387	470	1,689	173	222

## (2) 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、多様なニーズに対応するとともに、施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設の貸与を行った。

### ア 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、けいこ場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえた改善を実施するなど、利用者サービスの充実に努めた。

ホール利用においては、貸館セクションと舞台技術セクションの連携を図ることで、技術的な提案を実施するなど、利用者の問い合わせや要望に対し、適切かつ迅速に対応した。また、「劇場等演出空間の運用及び安全に関するガイドライン」を引き続き配布し、利用者の安全に対する意識向上にも取り組んだ。

施設利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対する代替日の斡旋や、施設の利用歴がある団体等へキャンセル情報の提供などに努めたほか、他県自治体や文化施設、県内大学、近隣小学校等の施設見学を積極的に受け入れた。

また、財団ホームページ内の施設利用専用ページにおいて、施設利用者への各種案内を即時に行った他、ホール催物のチラシを掲載するなど、利用者サービスの向上を図った。

一方、電気料金の値上がりへの対策も含め、空調機の停止や間欠運転（電力ピーク時）、照明の間引き、空調の温度設定や運転時間の調整などの節電に努めた。

総来場者数 306,892人

### 施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	1, 038	811	78.1
けいこ場・練習室	3, 743	3, 384	90.4
計	4, 781	4, 195	87.7

#### イ 埼玉会館

平成28年度は大規模改修工事に伴う休館中であったが、4月から順次、ホール等の平成29年度分利用受付を開始した。また、平成29年4月1日のリニューアルオープンに向けて諸準備を進めたほか、3月26日には内覧会等を開催した。

### (3) 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

#### ア 各種の活動及び発表の場の提供

多目的ホールである埼玉会館においては、リニューアルオープンとなる平成29年度以降も引き続き芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行うため、施設利用受付など諸準備を行った。

#### イ 駐車場の管理運営

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場において有料駐車場を管理運営した。埼玉会館においても、リニューアルオープンに向けて有料駐車場を管理運営するための準備を行った。

#### ウ その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場の施設内において、県の行政財産使用許可を得た上で、飲料販売業者と契約し、自動販売機を設置した。埼玉会館においても、リニューアルオープンに向けて自動販売機の設置準備を行った。

また、彩の国さいたま芸術劇場では、施設内及び敷地内での写真や動画の撮影等について対応したほか、新たに、タクシー運行业者と契約し、タクシー電話を設置した。

#### エ 埼玉会館のブランディング事業

平成29年3月26日(日)にリニューアルオープン記念事業「内覧会&コンサート」を開催。約1,300名の来場者があった。大ホールでは、浦和児童合唱団の合唱、県立浦和高等学校のグリークラブ、室内楽部、

吹奏楽部のコンサートのほか、(株)前川建築設計事務所の橋本功所長による改修のポイント解説を行った。また、小ホールでは、「埼玉会館の90年の歩み」と題して、大正15年の開館式、昭和41年の落成式の記録映像のほか埼玉会館に関する映像資料を上映した。

これにより、全国に誇れる価値をもつ「埼玉会館の歴史と建築」を発信するとともに、建築文化や埼玉会館への関心を醸成した。

## 2 理事会・評議員会の開催

当財団の事業計画、予算、決算の承認、事業の状況報告等を行うため、理事会を2回（5月、3月）、評議員会を2回（6月、3月）開催した。

## 3 役職員に関する事項

### (1) 役員数（平成29年3月31日現在）

（単位：人）

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1	1	
専務理事	1	—	1	県派遣 1
理 事	2	4	6	県派遣 1
監 事	—	2	2	
計	3	7	10	県派遣 2

### (2) 職員数（平成29年3月31日現在）

（単位：人）

	常 勤	非常勤	計	備 考
部長・館長	1	—	1	
参 事	3	—	3	
グループリーダー 課長・副参事	3	—	3	県派遣 1
主 査	16	—	16	県派遣 4
主 任	19	—	19	
主 事	4	—	4	
技 師	2	—	2	
プロデューサー	—	1	1	
参 与	—	1	1	
その他非常勤職員	—	1	1	
計	48	3	51	県派遣 5